

令和3(2021)年度 九州栄養福祉大学・大学院 教員情報

【リハビリテーション学部 作業療法学科】・【健康科学研究科 健康栄養学専攻】

フチ マサコ 雅子 FUCHI Masako 教授 [作業療法学科長]・小倉南区キャンパス学生部長

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科	
担 当 科 目	<p>【リハビリテーション学部 作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論 ・基礎作業演習Ⅰ、基礎作業演習Ⅱ ・作業療法評価学 ・生活機能評価 ・医療安全管理学 ・高次脳機能障害作業療法学 ・地域作業療法学 ・職業関連支援 ・中枢神経疾患作業療法学 ・作業療法研究法 ・臨床作業療法学演習Ⅰ、臨床作業療法学演習Ⅱ ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・スタートアップ教育Ⅰ、スタートアップ教育Ⅱ ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ ・作業療法卒業研究 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ <p>【九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経障害支援特論Ⅱ ・健康科学特別講義Ⅰ、健康科学特別講義Ⅱ ・健康科学研究法特論Ⅰ、健康科学研究法特論Ⅱ 	
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 身体障害領域における作業療法 (脳血管障害) ■ 日常生活活動 ■ 高次脳機能障害 	
最 終 学 歴	日本福祉大学 情報経営開発専攻 博士後期課程単位取得退学	
学 位	修士 (人間環境情報)	
職 歴	<p>労働福祉事業団 九州労災病院就職 (平成2(1990)年9月まで) (昭和56(1981)年4月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 就職 作業療法課課長 (平成2(1990)年10月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部・研究部次長 (平成6(1994)年10月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 副部長 (平成13(2001)年4月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 部長 (平成20(2008)年4月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 副院長 (平成24(2012)年5月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 (平成28(2016)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科長 (平成29(2017)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス学生指導課長 (平成31(2019)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス学生部長 (平成31(2019)年4月～現在に至る)</p>	
教育上の業績	<p>○広島大学非常勤講師「高次脳機能障害」担当 (平成16(2004)年～平成28(2016)年)</p> <p>○高知リハビリテーション学院非常勤講師「高次脳機能障害」担当 (平成7(1995)年～平成29(2017)年)</p>	

	<p>○西九州大学（佐賀県神埼市）非常勤講師「高次脳機能障害作業療法学」担当 （平成 20(2008)年～平成 23(2011)年）</p> <p>○国際医療福祉大学非常勤講師「神経心理学概論」担当 （平成 19(2007)年～平成 21(2009)年）</p> <p>○北九州リハビリテーション学院非常勤講師「高次脳機能障害」担当 （平成 14(2002)年～平成 21(2009)年）</p> <p>○国立療養所福岡東病院付属リハビリテーション学院非常勤講師 「高次脳機能障害」担当 （平成 7(1995)年～平成 17(2005)年）</p> <p>○国立療養所呉病院付属リハビリテーション学院非常勤講師 「ボバースアプローチ」担当 （平成 13(2001)年～平成 18(2006)年）</p> <p>○日本作業療法士協会 認定作業療法士取得講座講師 （平成 16(2004)年～平成 28(2016)年）</p> <p>○日本作業療法士協会 専門作業療法士取得講座講師 （平成 22(2010)年～現在に至る）</p>
<p>主な研究活動</p>	<p>【著書・論文】</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「半側空間無視のリハビリテーションの原点とトピック」(単著) (高次脳機能研究, 39(2). pp. 7-18. 2019,6) 2. 「ロッカーファンクションにより構成した筋骨格型ロボット歩行シミュレータ」 (共著) (臨床歩行分析研究会誌,6(2). 2019,6) 3. “Immediate synergistic effect of a trunk orthosis with joints providing resistive force and an ankle-foot orthosis on hemiplegic gait” (共著) Clinical Interventions in Aging 2018:13 211-220 「健常高齢者の排泄後の殿部清拭動作の分析」(共著) (理学療法学 42 (2) :98-104,2015) 4. 「上肢手の実用的機能向上 ボバースコンセプト：成人脳卒中片麻痺患者の上肢・手の障害への介入」(単著) 作業療法ジャーナル Vol. 51 No8 2017 5. 「片麻痺患者が非麻痺側から歩き始めた場合と、麻痺側から歩き始めた場合の動的バランスの違い～動的バランス指標 Xcom を用いた分析～」(共著) (理学療法科学 30(1),41-45,2015) 6. “The sit-to-walk motion of patients with stroke: Relationship between movement fluidity and physical ability” 「脳卒中患者が座位から歩きはじめ動作：動作の円滑性と身体能力の関係」(共著) Journal of the Japanese Physical Therapy Association (JJPTA) 7. 「効果的な介入のために ADL を客観的にとらえる～応用動作の分析」(共著) (日本リハビリテーション医学会 57 (7):392-298,2015) 8. 「右前頭頂葉損傷により空間認知の障害を呈した症例への評価と介入～身体図式と姿勢制御に着目して～」(共著) (ボバースジャーナル:38 (1) :31-41, 2015) 9. 「次世代を担う人材の育成 ～臨床における人材の育成と卒後教育のシステム～」(共著) (福岡・作業療法(13):16-24, 2015) 10. 「当院における回復期脳卒中片麻痺患者の歩行自立判定指標の検討～どのレベルに達したら病棟内歩行フリーとするか～」(共著) (Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science Vol6,2015) 11. 「片麻痺（回復期から維持期）：上肢を中心に」(共著) (臨床実習フィールドガイド,石川朗、ほか(編),株式会社南江堂,東京,p58-69,2014) 12. 「片麻痺患者が起立動作に失敗する運動学的・運動力学的特徴～動的バランス指標 (Xcom) を用いた分析～」(共著) (理学療法学 41(7):399-406,2014) 13. 「高次脳機能障害がある方への作業療法 ②プッシャー症候群」(単著) (作業療法ジャーナル増刊号 VOL.48 NO.7 2014 三輪書店, pp659-664) 14. 「脳卒中のリハビリテーションとチーム医療」(共著) (脳卒中のリハビリテーションとチーム医療 井林雪郎編集 メディカルレビュー社 2013. 1 p85-122)

- | |
|--|
| 15. 「脳卒中片麻痺患者の起立動作における運動学的・運動力学的評価指標 (共著)
(理学療法学 39(3):149-158,2012) |
| 16. 作業療法学全書作業治療学5「高次脳機能障害」編集 (協同医書出版) |
| 17. 「第1章高次脳機能障害と作業療法,第4章評価と介入の実践課程」(単著)
(作業療法学全書作業治療学5 高次脳機能障害:p1-7,53-76,2011,協同医書出版) |
| 18. 「当院の回復期リハビリテーション病棟での取りくみ—ひとりひとりの明日のために—」(共著)
(理学療法福岡 24:10-16,2011) |
| 19. 「自閉症スペクトラムの地域での支援」(共著) (OT ジャーナル 44: 198-203, 2010) |
| 20. 「ボバース概念に基づく神経心理学的問題の評価と介入」(共著)
(脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション,梶浦一郎、ほか (編)市村出版,東京,p134-151,2010) |
| 21. 「イラストで見る脳卒中患者へのアプローチ
—第1回目 総論ボバース概念を背景とした神経リハビリテーション—」(共著)
(臨床作業療法 9(4):409-412,2012 青海社) |
| 22. 「イラストで見る脳卒中患者へのアプローチ
—第2回目 片麻痺患者の上肢・手の治療①手の機能と片麻痺手の課題」(共著)
(臨床作業療法 9(6):658-661, 2013 青海社) |
| 23. 「イラストで見る脳卒中片麻痺患者へのアプローチ
第3回目 片麻痺者の上肢・手の治療 2)—上肢の治療, 支持・リーチ機能」(共著)
(臨床作業療法 10(1):54-57, 2013 青海社) |
| 24. 「イラストで見る脳卒中片麻痺患者へのアプローチ
第4回目 片麻痺者の上肢・手の治療 3)—上肢の治療, 対象操作機能」(共著)
(臨床作業療法 10(2):194-199, 2013 青海社) |
| 25. 「イラストで見る脳卒中片麻痺患者へのアプローチ
第5回目 高次脳機能障害の理解と介入 1)—空間性能力の障害」(共著)
(臨床作業療法 10(4):377-384, 2013 青海社) |
| 26. 「イラストで見る脳卒中片麻痺患者へのアプローチ
第6回目 高次脳機能障害の理解と介入 2)—行為能力の障害」(共著)
(臨床作業療法 10(6):521-525, 2014 青海社) |
| 27. 「イラストで見る脳卒中片麻痺患者へのアプローチ
第7回目 ADL 障害の理解と介入 1)」(共著)
(臨床作業療法 11(2):163-169, 2014 青海社) |
| 28. 「イラストで見る脳卒中片麻痺患者へのアプローチ
第8回目 ADL 障害の理解と介入 2)」(共著)
(臨床作業療法 11(5):414-419, 2014 青海社) |
| 29. 「イラストで見る脳卒中片麻痺患者へのアプローチ
第9回目 ADL 障害の理解と介入 3)」(共著)
(臨床作業療法 11(6):491-495 2015 青海社) |
| 30. 「高次脳機能障害がある方への作業療法 ②プッシャー症候群」(共著)
(作業療法ジャーナル VOL.48 NO.7 659-664 2014 三輪書店) |
| 31. 「右前頭頭頂葉損傷により空間認知の障害を呈した症例への評価と介入
～身体図式と姿勢正業に着目して～」(共著)
(ボバースジャーナル 38巻 第1号 31-41 2015) |
| 32. 「効果的な介入のためにADLを客観的にとらえる —応用動作の分析—」(共著)
(The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL.52 NO.7 392-398 2015) |
| 33. 「半側空間無視のリハビリテーションの原点とトピックス
～機能障害から生活障害へ～」(共著)
(高次脳機能研究 39 (2) 189-195 2019) |

34. 「症状別のアセスメントケア 8. 失認（半側身体失認、病態失認など）」（共著）
 （リハビリナース 第12巻6号 30-36 2019 メディカ出版）

【学会発表等】

1. 「半側空間無視患者に対するミラーセラピーによる半側空間無視症状改善の効果検証」
 （第1回九州作業療法学会, 2019,6）
2. 「リハビリマネジメントカンファレンスによるリハスタッフ教育が回復期リハビリテーション病棟利用者への目標設定および機能的自立度改善に及ぼす影響」
 （回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会 in 舞浜,2019,2）
3. 「同名半盲を併し視知覚・視空間認知障害を認めた症例に対しての体性感覚情報を活用した介入の検討」（第42回日本高次脳機能障害学会, 2018, 12）
4. 「回復期リハ病棟入院中の脳血管障害者における屋外歩行自立判定基準の作成」
 （回復期リハビリテーション病棟協会 第27回研究大会 in 岩手 2018.2）
5. 「脳卒中患者における Trail Making Test 遂行時の脳活動変化について」
 （第38回九州理学療法士作業療法士合同学会, 2017, 11）
6. 「回復期リハビリテーション病棟における ADL 向上のための チェックシートの開発と運用～経緯と内容の紹介～」
 （リハビリテーション・ケア合同研究大会 久留米2017, 2017, 10）
7. 「回復期リハビリテーション病棟における ADL 向上のためのチェックシートの開発と運用～症例への活用～」
 （リハビリテーション・ケア合同研究大会 久留米2017, 2017, 10）
8. 「回復期リハ病棟入院中の脳卒中患者における院内歩行自立判定式の作成」
 （リハビリテーション・ケア合同研究大会 久留米2017, 2017, 10）
9. 「脳卒中片麻痺患者における上肢機能回復と脳活動変化について—近赤外光イメージング装置（fNIRS）を用いて—」
 （第51回日本作業療法学会, 2017, 9）
10. 「鏡を用いた運動錯覚の生成における脳内活動の fNIRS による解析」
 （第50回日本作業療法学会, 2016, 9）
11. 「脳卒中片麻痺患者のバランス能力に影響を及ぼす因子の検討～自己身体能力の認識に着目して～」
 （第50回日本作業療法学会, 2016, 9）
12. 「歩行に最少介助を要する脳損傷後片麻痺患者の動的バランスの特徴～歩行時の margin of stability を用いた介助群と自立群の比較～」
 （第51回日本理学療法学会, 2016, 5）
13. 「脳損傷後片麻痺患者の前遊脚期における股関節・足関節運動戦略の特徴」
 （第12回日本神経理学療法学会, 2015, 11）
14. 「退院後に歩行能力が低下した脳卒中片麻痺患者1症例の歩行改善に対する一考察」
 （第5回日本ボバース学会研究大会, 2015, 8）
15. 「Foix-Chavany-Marie 症候(両側前弁蓋部症候群)を呈した症例の摂食嚥下障害に対するアプローチ」
 （第16回日本言語聴覚学会, 2015, 6）
16. 「動的バランス能力と認知機能の関連」（第49回日本作業療法学会, 2015, 6）
17. 「手指運動を用いたワーキングメモリ課題の施行過程における前頭葉活動変化 運動学習について - 操作手の違いによる考察を加えて - 」（第49回日本作業療法学会, 2015, 6）
18. 「発達に伴う小児歩行の運動学的特徴（第2報）前額面における重心制御の発達に着目して」
 （第50回日本理学療法学会, 2015, 6）
19. 「脳損傷後片麻痺患者の歩行時における力学的エネルギー変換効率と体幹運動の関係性」
 （第50回日本理学療法学会, 2015, 6）

<p>20. 「フットケアに対する実態調査」 (回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)</p>
<p>21. 「回復期リハ病棟から在宅へ継続して介入を行った一症例」 (回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)</p>
<p>22. 「回復期リハビリテーション病棟における学童期の患者に対する復学支援について」 (回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)</p>
<p>23. 「健常高齢者の排泄後の殿部清拭動作の分析～殿部清拭方法別の難易度を探る～」 (第35回バイオメカニズム学会, 2014, 11)</p>
<p>24. 「間接訓練により嚥下障害が改善した左上顎歯肉癌術後の1例」 (第4回日本語聴覚士協会九州地区合同学術集会大分大会, 2014, 10)</p>
<p>25. 「家族が在宅生活を見通せるようになったことで、円滑に在宅復帰できた事例 ー早期から家族と関わる重要性ー」 (第16回世界作業療法連盟大会・第48回日本作業療法学会, 2014, 06)</p>
<p>26. 「片麻痺患者が起立動作に失敗する運動学的・運動力学的特徴～なぜ片麻痺患者は起立に失敗するのか～」 (第49回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2014, 05)</p>
<p>27. 「脳損傷後片麻痺歩行における歩行周期別力学的エネルギー変換率と運動機能との関連性」 (第49回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2014, 05)</p>
<p>28. 「発達に伴う乳幼児歩行の運動力学的特徴ー推進機能に着目してー」 (第49回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2014, 05)</p>
<p>29. 「家族や病棟スタッフ間の連携により歩行が自立し、主婦として在宅復帰に至った一症例」 (回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)</p>
<p>30. 「回復期退院後の在宅生活を見据えた指導後の追跡調査」 (回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)</p>
<p>31. 「脳損傷後片麻痺患者の退院時実用移動レベルを予測可能な因子の検討と予測式の開発～初回担当時に得られる情報、評価項目を独立変数として用いて～」 (回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)</p>
<p>32. 「当院における回復期脳卒中片麻痺患者の歩行自立判定因子の分析 (第3報) ～どのレベルに達したら病棟内歩行フリーとするか～」 (回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)</p>
<p>33. 「操作手の違いによるワーキングメモリ課題時の前頭葉活動の検討 - fNIRS を用いた研究 -」 (第37回日本高次脳機能障害学会学術総会, 島根, 2013, 11)</p>
<p>34. 「自発的なADL遂行が困難となった症例との関わりを通して」 (第35回PTOT合同学会, 熊本, 2013, 11)</p>
<p>35. 「高さ条件が異なる到達把持運動の分析 ー体幹・上肢の運動学的特徴に着目してー」 (第35回PTOT合同学会, 熊本, 2013, 11)</p>
<p>36. 「排泄動作における後方からの後始末動作の分析」 (第35回臨床歩行分析研究会定例会, 青森, 2013, 11)</p>
<p>37. 「なぜ、片麻痺患者は起立動作で失敗するのか ～動的バランス指標 (Xcom) を用い難殿の難しさ探る～」 (第35回臨床歩行分析研究会定例会, 青森, 2013, 11)</p>
<p>38. 「頭蓋底髄膜腫術後嚥下障害をきたし、喉頭形成術を伴う嚥下リハビリテーションにより良好な転帰をたどった一例」 (第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 岡山, 2013, 9)</p>
<p>39. 「脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作の評価と介入 ー三次元動作解析装置を用いた評価・分析と効果検証ー」 (第3回ボナース学会, 東京, 2013, 7)</p>

- | |
|--|
| 40. 「脳卒中片麻痺歩行の力学的エネルギー交換率からみた分析
—実用的移動自立度・立脚期での異常分類からみた検証—」
(第3回ボハース学会, 東京, 2013, 7) |
| 41. “Does the Vitamin D multi-nutrient supplementation increase the fluidity of sit-to-walk motion in chronic stroke patients?”
(2nd Joint World Congress of ISPGR and Gait & Mental Function, Akita, 2013,6) |
| 42. 「脳卒中片麻痺患者の片手による下衣操作の自立要素の検討 第2報—経時的变化を通して—」
(第47回日本作業療法学術大会, 大阪, 2013, 6) |
| 43. 「両側視床・後頭葉内側の損傷により記憶障害を主とした高次脳機能障害を呈した症例に対する作業療法介入」
(第47回日本作業療法学術大会, 大阪, 2013, 6) |
| 44. 「脳卒中片麻痺患者の歩行運動における力学的エネルギー変換率を低下させる要因」
(第48回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013, 05) |
| 45. 「片麻痺患者はどちらの足から歩き始めるほうが安全で効率的か～動的バランス指標 Xcom を用いた分析～」
(第48回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013, 05) |
| 46. 「脳血管障害片麻痺患者の歩行における体幹の角度変化量と歩行自立度及び下肢との関係」
(第48回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013, 05) |
| 47. 「片麻痺患者における起立動作時の上下肢連合反応が歩き始め動作に及ぼす影響」
(第38回日本脳卒中学会総会, 東京, 2013, 03) |
| 48. 「片麻痺歩行における遊脚相の運動方略の違いが初期接地に及ぼす影響」
(第38回日本脳卒中学会総会, 東京, 2013, 03) |
| 49. 「脳損傷患者のADLと前頭葉機能との関連」
(第36回日本高次脳機能障害学会学術総会, 栃木, 2012, 12) |
| 50. 「片麻痺患者はどちらの足から歩き始める方が良いのか～動的バランス指標 (Xcom) を用いた分析～」
(第34回臨床歩行分析研究会定例会, 大阪, 2012, 11) |
| 51. 「高機能広汎性発達障害児の協調運動障害について～縄跳びに着目して～」
(第33回九州理学療法士、作業療法士合同学会, 長崎, 2012, 11) |
| 52. 「排せ後の後始末動作の分析」
(第33回九州理学療法士、作業療法士合同学会, 長崎, 2012, 11) |
| 53. “Inefficiency of Choosing the Non-affected Leg as the First Swing Leg in the Sit-to-Walk Motion after Stroke”(1st Joint World Congress of ISPGR and Gait & Mental Function, Norway, 2012,6) |
| 54. 「視覚に基づく運動と記憶に基づく運動における前頭葉活動の検討— f NIRS による研究—」
(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6) |
| 55. 「脳卒中片麻痺患者の片手による下衣操作の自立要素の検討」
(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6) |
| 56. 「脳血管障害片麻痺患者の到達把持運動に着目した麻痺側上肢の評価の有用性」
(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6) |
| 57. 「条件の違いによるワーキングメモリ課題の前頭葉活動の検討 - f NIRS を用いた研究 - 」
(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6) |
| 58. 「脳血管障害片麻痺患者の到達運動の分析」
(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6) |
| 59. 「座位リーチ動作の力学的特性と上衣更衣動作の自立度との関連性」
(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6) |
| 60. 「脳血管障害片麻痺患者の動的バランス能力に関連する円滑さの分析
～下肢関節トルク変化の円滑さが身体重心制御に与える影響～」
(第47回日本理学療法学術大会, 兵庫, 2012, 5) |

	<p>61. 「徒手的誘導前後におけるパフォーマンスの変化と大脳皮質活動の検討— f NIRS を用いて—」 (第 47 回日本理学療法学会大会, 兵庫, 2012, 5)</p> <p>62. 「地域高齢者における運動が認知機能に及ぼす影響について」 (第 47 回日本理学療法学会大会, 兵庫, 2012, 5)</p> <p>63. 「脳血管障害片麻痺患者における歩行時の杖使用有無が与える影響～対称性に着目した分析～」 (第 37 回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2012, 05)</p> <p>64. 「片麻痺患者が座位から歩き始める動作の分析～初期接地戦略と動作の円滑性の関係～」 (第 37 回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2012, 05)</p> <p>65. 「f NIRS による前頭葉課題施行中の脳活動の測定についての検討 ～脳卒中患者の特徴～」 (第 37 回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2012, 05)</p> <p>66. 「当院回復期リハ病棟における早遅リハの現状と課題」 (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)</p> <p>67. 「回復期リハ病棟から訪問リハへの継続的リハビリテーションを経験して—自宅退院後の移動に着目して—」 (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)</p> <p>68. 「回復期リハビリテーション病棟退院後の追跡調査～退院時から 6 ヶ月間の FIM 変化～」 (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)</p> <p>69. 「当院回復期リハビリテーション病棟における退院前訪問指導の現状と課題」 (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市障害認定 (令和 3 年(2021)年～現在に至る) ・IBITA 認定ボバースアプローチ基礎講習会インストラクター (平成 12(2000)年～現在に至る) ・IBITA 認定ボバースアプローチ上級講習会インストラクター (平成 22(2010)年～現在に至る) ・高次脳機能障害作業療法研究会 世話人代表 (平成 29(2017)年～現在に至る)
所属学会	<p>高次脳機能障害作業療法研究会 臨床歩行分析研究会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 日本神経心理学会 日本高次脳機能障害学会 日本作業療法士協会</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食と農園 ・基礎心理学 <p>[リハビリテーション学部 作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学概論 ・人間発達学 ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・発達期作業療法評価演習 ・発達障害作業療法学 ・活動解析演習 ・基礎作業演習Ⅱ ・作業療法研究法 ・臨床作業療法学演習Ⅰ、臨床作業療法学演習Ⅱ ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・作業療法卒業研究 ・地域作業療法学 ・臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ <p>[食物栄養学部 食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論 <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児リハビリテーション支援特論Ⅰ、小児リハビリテーション支援特論Ⅱ ・健康科学特別講義Ⅰ、健康科学特別講義Ⅱ ・健康科学研究法特論講義 ・健康科学研究法特論演習 ・地域活動支援特論Ⅰ ・特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発達障害作業療法 ■ 特別支援教育 ■ 地域支援 ■ 家族支援
最 終 学 歴	福岡県立大学大学院 人間社会学研究科
学 位	修士 (生涯発達)
職 歴	<p>○社会福祉法人別府発達医療センター (旧別府整肢園) (昭和 62(1987)年 4 月～平成 6(1994)年 12 月)</p> <p>労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 講師 (平成 7(1995)年 1 月～平成 16(2004)年 3 月)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 講師 (平成 16(2004)年 4 月～平成 19(2007)年 3 月)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 准教授 (平成 19(2007)年 4 月～平成 27(2015)年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授 (平成 24(2012)年 4 月～平成 27(2015)年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 (平成 27(2015)年 4 月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 健康科学研究科 教授 (平成 31(2019)年 4 月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス教務課長 (平成 31(2019)年 4 月～現在に至る)</p>

	九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス教務部長 (平成31(2019)年4月～現在に至る) 学校法人東筑紫学園 評議員 (令和2(2020)年4月～現在に至る) 学校法人東筑紫学園 理事 (令和3(2021)年4月～現在に至る)
教育上の業績	○別府発達医療センターにて作業療法実習生の指導 (昭和62(1987)年～平成6(1994)年12月) ○日本作業療法士協会主催生涯教育講座 発達障害分野の講師 (平成16(2004)年～現在に至る)
主な研究活動	【著書】
	「機能的姿勢—運動スキルの発達」 (共著) : 協同医書出版社、1997.5
	「神経発達学的治療と感覚統合理論」 (共著) : 協同医書出版社、2001.6
	「福祉用具専門相談委員指定講習会テキスト」 (共著) : (財) 総合健康推進財団、2004.8
	「セラピストのためのリハビリテーション医療」 (共著) : 永井書店、2005.12
	「服部リハビリテーション技術全書」 (共著) : 医学書院、2014.4
	【学術論文】
	1. 「遊びを支援するコンピュータ入力デバイスの開発」 (共著) : (労働福祉事業団平成12年度医学研究結果報告書第11号、2001.3)
	2. 「関係性を重視した子どもとその家族の発達支援に関する理論的背景とその実践 間主観性から見た関係性の理論」 (単著) : (福岡県作業療法ジャーナル 第4号、2004.5)
	3. 「知的障害を持つ児童の書字学習に対する発達心理学的支援」 (単著) : (臨床発達心理実践研究、第3巻、2008.7)
	4. 「環境・人・物との関係性の改善をめざして 福祉機器・用具は障害を持つ子どものために役に立っているか」 (単著) : (福祉介護機器 TECHNO プラス Vol.1, No.11、2008.11)
	5. 「療育支援センターに来談する学童児の社会性発達支援」 (単著) : (福岡県作業療法ジャーナル 第9号、2010.5)
	6. 「臨床実習における学生の行動および認知特性尺度の開発-ソーシャルスキル、 ストレスコーピングとの関連性-」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第8巻、2011.12)
	7. 「手のラテラルリティに影響する要因の検討- 箸・鉛筆の作業活動を用いた探索的研究」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第9巻、2012.12)
	8. 「長期臨床実習における学生の健康状態および実習態度に関する社会心理学的研究」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第10巻、2013.12)
	9. 「臨床実習を終了した学生の内的発達に関する社会心理学的研究」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第11巻、2014.12)
	10. 「学内実習農園の開設と行事・教科教育としての実践」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第12巻、2015.12)
	11. 「掌中操作と日常生活活動との関連性について」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第13巻、2016.12)
	12. 「青年期における手の巧緻操作と道具操作との関連性」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第14巻、2017.12)
	13. 「臨床実習における学生の实習態度と精神的回復力との関連性」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第15巻、2018.12)
	14. 「母子保健事業における地域作業療法の実践と課題」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第16巻、2019.12)
	15. 「手の巧緻性に関する発達とその評価～手内操作の評価法の紹介～」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第17巻、2020.12)
	【学会発表】
	1. 「精神運動発達遅滞児における遊びに必要なスキルの獲得過程とその意味について」 (単著) : (第7回福岡県作業療法学会、2000.2)
	2. 「手を口に入れる子どもの対応を考える：14歳女兒との作業療法を経験して」 (単著) : (第8回福岡県作業療法学会、2001.2)

	<p>3. 「パソコンを利用した電子絵本の紹介とその実用性」(単著) : (第35回日本作業療法学会、2001.6)</p> <p>4. 乳児発達支援における間主観的アプローチの試み(単著) : (第9回福岡県作業療法学会、2002.2)</p> <p>5. 「動的バランス練習のためのバランスボード型コンピュータ入力デバイスの試作」(単著) : (第24回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2002.11)</p> <p>6. 「乳幼児を持つ母親の育児感情と養育態度に関する構造分析とその特徴」(単著) : (第33回全国リハビリテーション技師会全国研修会、2003.9)</p> <p>7. 「育児期母親が子どもの態度を負担と感じる要因の検討」(単著) : (第25回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2003.11)</p> <p>8. 「補講期間に行ったポートフォリオ的戦略学習法の可能性について」(共著) : (第39回日本作業療法学会、2005.6)</p> <p>9. 「発達障がいを持つ子どもの地域支援と家族支援 教科学習の支援プログラムについて」(単著) : (第11回福岡県作業療法学会、2006.2)</p> <p>10. 「発達障害を持つ子どもの家族支援と地域支援の現状 療育支援施設での実践」(単著) : (第40回日本作業療法学会、2006.6)</p> <p>11. 「発達障害を持つ子どもの教育上の問題とその対応 引き算の思考分析と課題設定」(単著) : (第12回福岡県作業療法学会、2007.2)</p> <p>12. 「知的障害を持つ子どもの書字学習に対する発達心理学的支援」(再掲)(単著) : (日本臨床発達心理士会 第3回全国大会、2007.7)</p> <p>13. 「集団適応の難しい児童の場面認知の特徴について SST を試みた事例報告」(単著) : (第13回福岡県作業療法学会、2008.2)</p> <p>14. 「乳幼児、学童児の学習及び行動の問題に対する発達心理学的支援」(単著) : (第7回東アジアヘルスプロモーション会議、2009.9)</p> <p>15. 「特別支援教育に関わる作業療法士の役割について」(単著) : (第31回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2009.11)</p> <p>16. 「長期臨床実習における学生の行動特性について」(共著) : (第32回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2010.11)</p> <p>17. 「長期臨床実習における学生の行動特性の変化について」(共著) : (第33回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2011.11)</p> <p>18. 「長期臨床実習における学生の健康状態及び実習態度と社会的スキルとの関連性」 : (第16回世界作業療法士連盟大会・第48回日本作業療法学会、2014.6)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県田川保健福祉事務所 発達相談員 (平成10(1998)年4月～現在に至る) ・田川市保健センター 発達相談員 (平成11(1999)年4月～現在に至る) ・北九州市介護認定審査会 審査委員 (平成11(1999)年4月～現在に至る)
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本作業療法士協会 日本発達心理学会 日本臨床発達心理士会
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> 功労賞(北九州市)

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担当科目	[リハビリテーション学部 作業療法学科] <ul style="list-style-type: none"> 作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ 身体障害評価論演習Ⅰ、身体障害評価論演習Ⅱ 作業療法研究法、作業療法卒業研究 認知機能障害評価論演習、日常生活活動分析論演習、身体障害作業療法Ⅰ 臨床作業療法学演習Ⅰ・臨床作業療法学演習Ⅱ 作業療法基礎演習、作業療法専門演習 臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 身体障害作業療法 ■ 高次脳機能障害
最終学歴	鹿児島大学大学院 保健学研究科博士後期課程単位取得後退学
学位	修士 (保健学)
職歴	<p>玉昌会 加治木温泉病院・高田病院 (平成 11(1999)年 4 月～平成 23(2011)年 8 月)</p> <p>神村学園専修学校 作業療法学科 教員 (平成 23(2011)年 9 月～平成 26(2014)年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 (平成 26(2014)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授 (平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス学生部 学生指導課指導主事・教務部教務課指導主事 (令和 3(2021)年 4 月～ 現在に至る)</p>
教育上の業績	○神村学園医療福祉専門学校作業療法学科 非常勤講師 (平成 14(2002)年 4 月)
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <ol style="list-style-type: none"> 四元孝道：注意障害を伴う脳血管障害患者に対する dual task 訓練の効果に関する研究 (作業療法 30(4): 466-475, 2011.) 四元孝道、高橋精一郎、廣滋恵一、長尾哲男、奥村克博、渡邊恭弘、萩原隆二：座位バランス訓練装置の開発 (第 2 報) 一 片麻痺患者のバランス反応一 (九州栄養福祉大学紀要 12 : 87-94, 2015) 四元孝道、佐野幹剛、松田隆治：臨床実習における大学へのフィードバックと行動認知特性尺度の報告 (九州栄養福祉大学紀要 12 : 95-103, 2015) T.Yotsumoto, K.Hiroshige, A.Inomoto, M.Fuchi, S.Takahashi : Toward the development of a sitting position training system (Proceedings of Life Engineering Symposium : 19-23 , 2019) 四元孝道、澁雅子、井元淳、廣滋恵一：地域高齢者の認知機能検査と身体機能検査の関連性 (九州栄養福祉大学紀要 16 : 83-90, 2019) 四元孝道、小川修、宮田浩紀、小牟田尚美、澁雅子：認知症予防を中心とした健康教室の取り組み (九州栄養福祉大学紀要 16 : 91-98, 2019) <p>【学会発表】</p> <ol style="list-style-type: none"> 四元孝道、山内愛、小川千穂、金田明子、増永美奈、立山栄香、城ノ下唯子、溜いずみ、山下智子：特定高齢者に対する認知症予防教室一県士会の活動として一 第 32 回 九州 PTOT 合同学会 (2010.11)

	<p>2. T.Yotsumoto, K.Hiroshige, A.Inomoto, M.Fuchi, S.Takahashi : Toward the development of a sitting position training system SICE Life Engineering Symposium 2019 and ECTI Biomedical Engineering (2019.8)</p> <p>3. 四元孝道、湊雅子、井元淳、廣滋恵一： 地域高齢者の認知機能検査と身体機能検査との関連性における予備的研究 第53回 日本作業療法学会 (2019.9)</p> <p>4. 四元孝道、井元淳、湊雅子： 勤労者の年代別における注意検査と身体機能検査の検討 第43回 日本高次脳機能障害学会学術総会 (2019.11)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島高次脳機能障害者支援推進委員 (平成17(2005)年～平成23(2011)年) ・一般社団法人鹿児島県作業療法士会理事 (平成19(2007)年～平成23(2011)年) ・北九州守恒地区認知症予防教室講師 (平成29(2017)年～令和2(2020)年)
所属学会	<p>一般社団法人日本作業療法士協会 (認定作業療法士・専門作業療法士 (高次脳機能障害))</p> <p>日本高次脳機能障害学会 日本神経心理学会 日本リハビリテーション工学協会 日本職業・災害医学会</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 作業療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ教育Ⅰ・スタートアップ教育Ⅱ ・基礎作業実習 ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・身体障害作業療法学Ⅱ ・日常生活活動支援 ・高齢期障害作業療法学 ・臨床作業療法学演習Ⅰ、臨床作業療法学演習Ⅱ ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・作業療法研究法 ・作業療法卒業研究 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 身体障害作業療法 ■ 高齢期作業療法 ■ 高次脳機能
最 終 学 歴	鳥取大学大学院 医学系研究科機能再生医科学専攻博士後期課程単位取得退学
学 位	修士（再生医科学）
職 歴	<p>高邦会 高木病院（作業療法室開設）作業療法士（昭和63(1988)年4月）</p> <p>高邦会 柳川リハビリテーション病院（作業療法室開設）作業療法室副室長 （平成2(1990)年4月）</p> <p>介護老人保健施設しょうぶ苑（リハビリテーション室開設）作業療法士 （平成3(1991)年4月）</p> <p>鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科専任教員（平成9(1997)年3月）</p> <p>メディカルカレッジ青照館開設準備室 作業療法学科専任教員（平成11(1999)年10月）</p> <p>日本メディカル専門学校作業療法学科専任教員（平成15(2003)年2月）</p> <p>松江総合医療専門学校作業療法士科専任教員・学科長（平成17(2005)年4月）</p> <p>神戸総合医療専門学校作業療法士科専任教員（平成26(2014)年8月）</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 （平成27(2015)年4月）</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授 （平成29(2017)年4月～令和2(2020)年3月）</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 （令和2(2020)年4月～現在に至る）</p>
教育上の業績	<ul style="list-style-type: none"> ○佐賀県立総合看護学院保健学科における非常勤講師（平成6年～8年） ○鹿児島医療技術専門学校における専任教員（平成9年～平成11年） ○メディカルカレッジ青照館における開校前準備・開校後専任教員（平成11年～平成13年） ○日本メディカル専門学校における専任教員（平成15年～平成17年） ○松江総合医療専門学校における専任教員・学科長（平成17年～平成26年） ○早期専門職養成を目指した入学前課題の導入（平成23年～平成26年） ○新入生の早期退学の抑制を目的として、1、2年生対象の宿泊研修や卒業生の講演会・交流会の企画・運営（平成23年～平成26年） ○グループ学習の導入学習として、グループディスカッションの効果の体験学習を実施（平成23年～令和元年） ○神戸総合医療専門学校における専任教員（平成26年～平成27年） ○臨床実習対策として、「疾患別ノート」の作成と学習支援を実施（平成27年～令和元年）

	<p>○国家試験対策において、国家試験対策スケジュールの管理や進捗状況の把握、学内模試・学外模試の成績管理を徹底し、特に学内・学外模試実施後は当日中に結果を本人に返却し、苦手科目や学習方法についてフィードバックを行った。(平成27(2015)年～令和元(2019)年)</p> <p>○東筑紫短期大学専攻科における非常勤講師「バリアフリー論」(平成28(2016)年～平成29(2017)年)</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「視覚野損傷後の回復における視覚入力の影響」(修士論文) 鳥取大学大学院医学系研究科 2. 「作業療法教育に必要な指導観(第1報)ー専門学校と大学の比較ー」(九州栄養福祉大学研究紀要12. 105-114, 2015) 3. 「作業療法教育に必要な指導観(第2報)ー専門教育の中でのアクティブラーニングの活用についてー」(九州栄養福祉大学研究紀要13. 265-273, 2016) 4. 「作業療法教育に必要な指導観(第3報)ーアクティブラーニングの活用と効果ー」(九州栄養福祉大学研究紀要14. 207-217, 2017) 5. 「国家試験対策とクラスの凝集性ーピアサポーターの育成ー」(九州栄養福祉大学研究紀要14. 195-205, 2017)
	<p>【学会発表】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「当院作業療法対象患者の入院までの経過調査」(共同) 第84回熊本リハビリテーション研究会 (平成2(1990)年12月 熊本) 2. 「心理的評価MASと他の評価との関連について」(共同) 第85回熊本リハビリテーション研究会 (平成3(1991)年4月 熊本) 3. 「リハ病院入院患者のMASと家族の受け入れ状況との関連について」(共同) 第25回日本作業療法学会 (平成3(1991)年6月 北海道) 4. 「Effects of visual inputs on recovery after excitotoxic lesion of visual cortex」(筆頭) 第85回日本生理学会大会 (平成20(2008)年3月 東京) 5. 「脳損傷後の回復における感覚入力の影響」(筆頭) 第42回日本作業療法学会 (平成20(2008)年6月 長崎) 6. 「専門学校から大学への移行に伴う入学生の変化」(筆頭) 第29回教育研究大会・教員研修会 (平成28(2016)年8月 香川) 7. 「アクティブラーニングの活用と効果(学生はアクティブになったのか)」(筆頭) 第31回教育研究大会・教員研修会 (平成30(2018)年8月 北海道)
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県立総合看護学院保健学科非常勤講師 (平成6(1994)年から3年間) ・鹿児島県母子寡婦福祉連合会主催ヘルパー3級講習会講師 (平成10(1998)年) ・第20回九州理学療法士・作業療法士合同学会 教育セッション座長 (平成10(1998)年) ・鹿児島県母子寡婦福祉連合会主催ヘルパー2級講習会講師 (平成11(1999)年) ・島根県社会福祉協議会主催ガイドヘルパー養成研修会講師 (平成18(2006)年～平成20(2008)年) (3年間) ・島根県作業療法士会現職者研修会(旧新人教育プログラム)「研究法」講師 (平成18(2006)年) ・東筑紫短期大学専攻科非常勤講師「バリアフリー論」非常勤講師 (平成28(2016)年・29(2017)年) ・島根県作業療法士会現職者研修会「職業倫理」講師 (平成22(2010)年) ・佐賀県作業療法士会 学術部理事 (平成5(1993)年から3年間) ・鹿児島県作業療法士会 監事 (平成9(1997)年から2年間) ・日本作業療法士協会教育部 教育関係資料収集委員会委員 (平成9(1997)年から2年間) ・日本作業療法士協会教育部 部員 (平成11(1999)年から2年間) ・島根県作業療法士会 監事 (平成22(2010)年から2年間) ・東筑紫短期大学専攻科「バリアフリー論」非常勤講師 (平成29(2017)年)

	・全国リハビリテーション学校協会学術委員会「リハビリテーション教育研究」 査読委員 (令和元(2019)年～令和2(2020)年)
所属学会	日本作業療法士協会

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸療法実習、ガーデニング <p>[リハビリテーション学部 作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法概論 ・スタートアップ教育Ⅰ、スタートアップ教育Ⅱ、 ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・基礎作業実習 ・レクリエーション ・地域移行精神障害作業療法学 ・急性期精神障害作業療法学 ・臨床作業療法学演習Ⅰ、臨床作業療法学演習Ⅱ ・作業療法研究法 ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・作業療法卒業研究 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ ・園芸療法実習、ガーデニング
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 精神障害系作業療法 ■ 基礎作業 ■ レクリエーション ■ 園芸療法
最 終 学 歴	労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校
称 号	専門士
職 歴	<p>福岡県精神保健センター (平成3(1991)年6月～平成9(1997)年3月)</p> <p>福岡県立遠賀病院 (平成9(1997)年4月～平成15(2003)年3月)</p> <p>福岡県立精神医療センター 太宰府病院 (平成15(2003)年4月～平成17(2005)年3月)</p> <p>専門学校 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 助手 (平成17(2005)年4月～平成19(2007)年3月)</p> <p>専門学校 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 助教 (平成19(2007)年4月～平成23(2011)年3月)</p> <p>専門学校 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 講師 (平成23(2011)年4月～平成27(2015)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 (平成25(2013)年4月～平成28(2016)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授 (平成28(2016)年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>【作成した教科書・教材】</p> <p>○「服部リハビリテーション技術全書第3版」第8章 レクリエーション その他</p>
主な研究活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「痴呆アセスメントマニュアル」 (共著) 2. 「北九州医療刑務所での作業療法」 (単著) 3. 「精神科作業療法士の興味苦悩－福岡・佐賀精神科 OT 懇話会会員実態調査より－」 (共著) 4. 「精神科作業療法士の現状－福岡・佐賀精神科 OT 懇話会会員実態調査より－」 (共著) 5. 「デイ・ケア利用者のフォローアップ調査」 (共著) 6. 「デイ・ケアプログラムの固定化に伴うメンバーの変化」 (共著) 7. 「在宅痴呆性高齢者の類型化 (2) －類型化された各タイプの特徴－」 (共著) 8. 「在宅痴呆性高齢者の類型化 (3) －類型判別用紙の作成について－」 (共著)

主な社会活動	1. 第32回 九州理学療法士・作業療法士合同学会 座長 (平成22(2010)年5月)
	2. 福岡県作業療法協会 小倉南・京築エリア研修会 講師 (平成23(2011)年8月)
	3. 日本作業療法協会専門作業療法士取得研修 認知症基礎V 講師 (平成24(2012)年1月)
	4. 福岡県作業療法協会 八幡西・遠賀・中間エリア研修会 講師 (平成24(2012)年10月)
	5. 第17回 福岡県作業療法学会 座長 (平成25(2013)年3月)
	6. 若松区医療・介護従事者研修会 講師 (平成25(2013)年8月)
	7. 第18回 福岡県作業療法学会 座長 (平成26(2014)年2月)
	8. 日本作業療法協会 精神科分野研修会 テーマI 講師 (平成27(2015)年9月)
	9. 福岡県立戸畑高等技術専門学校 介護サービス科実務者研修 講師 (平成21(2009)年6月～現在に至る)
	10. 周望学舎シニアカレッジ (平成18(2006)年10月～現在に至る)
	11. まなびとESD講座 (平成26(2014)年6月～平成28年5月)
	12. 第21回 福岡県作業療法学会 座長 (平成29(2017)年2月)
	13. 福岡県安全運転医療連絡協議会 座長 (平成30(2018)年4月)
	14. 九州理学療法士・作業療法士合同学会 座長 (平成30(2018)年10月)
	15. 福岡県精神科病院協会 北九州ブロック研修会 座長 (令和3(2021)年4月)
所属学会	日本作業療法学会 九州作業療法学会 福岡県デイ・ケア研究協議会 九州集団療法研究会
受賞歴	公益社団法人 福岡県作業療法協会 協会表彰 (平成30(2018)年2月)

ヨシオカ ナナ
吉岡 奈々 NANA Yoshioka 准教授 [実習調整者]

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	[リハビリテーション学部 作業療法学科] <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法基礎演習,作業療法専門演習 ・基礎作業実習,基礎作業実習Ⅱ ・身体障害評価論演習Ⅰ,身体障害評価論演習Ⅱ ・医療安全管理学 ・作業療法評価学 ・身体障害作業療法学Ⅱ ・運動器疾患作業療法学 ・臨床実習Ⅲ,臨床実習Ⅳ,臨床実習Ⅴ ・スタートアップ教育Ⅰ,スタートアップ教育Ⅱ ・作業療法ゼミナールⅠ,作業療法ゼミナールⅡ,作業療法ゼミナールⅢ ・作業療法研究法,作業療法卒業研究
専 門 分 野	■ 身体障害 (内部疾患・運動器疾患) の作業療法
最 終 学 歴	北九州市立大学大学院 マネジメント研究科修士課程修了
学 位	修士 (経営学)
職 歴	医療法人北九州病院 リハビリテーション部 (平成14(2002)年4月～平成16(2004)年3月) 財団法人三萩野病院 リハビリテーション室 (平成16(2004)年4月～平成18(2006)年7月) 国立病院機構関門医療センター リハビリテーション科部 (平成18(2006)年8月～平成24(2012)年3月) 九州旅客鉄道株式会社 JR九州病院 リハビリテーション室 (平成24(2012)年4月～令和2(2020)年3月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部作業療法学科 准教授、実習調整者 (令和2(2020)年4月～現在に至る)
教育上の業績	○関門医療センター, JR九州病院にて作業療法臨床実習生指導 (平成18(2006)年～令和元(2019)年) 急性期病院において,作業療法養成校6校を受け入れ,臨床実習指導に13年間携わった。
主な研究活動	【著書・学術論文】 1. 「高齢者慢性心不全に対する作業療法の経験」 (共著) (2013.3) :(ISSN 0022-5274, 交通医学 67(1),28,2013) 2. 「当院,心臓リハビリテーションにおける作業療法 ～作業療法士が関わる心大血管の種類と特徴～」 (共著) (2014.3) :(ISSN 0022-5274, 交通医学 68(1),86,2014) 3. 「心腎連関と作業療法」 (共著) (三輪書店) (2015.11) :(作業療法ルジャーナル 30(1),41-45,2015) 4. 「医療機関におけるサービス品質と顧客満足度にまつわる一考察」 (共著) (2015.3) :(北九州市立大学マネジメント集 10号:19-33,2017) 5. 「遠隔授業に対するリメディアル教育・学修支援委員の取り組み」 (共著) (2020.12) :(九州栄養福祉大学研究起要 17,1-7,2020)
	【学会発表】 1. 「手指伸筋腱皮下断裂に対する術後早期運動療法の経験」 (筆頭) (第22回 山口県作業療法学会,山口県,2007.10) 2. 「橈骨遠端骨折術後の伸筋腱皮下断裂のハンドセラピー」 (筆頭) (北九州ハンドセラピー研究会,福岡県,2008.11) 3. 「高齢者慢性心不全に対する作業療法の経験-認知症を呈する一例-」 (筆頭) (第17回 福岡県作業療法学会,福岡県,2013.3)

	4. 「dowel texture を用いた脱感作療法の1例」(共著) (第68回 日本交通学会,福岡県,2013.7)
	5. 「急性心筋梗塞後症例に対する作業療法の経験」(筆頭) (第35回 九州理学療法士・作業療法士学会,熊本県,2013.11)
	6. 「重複障害を有する高齢心不全に対する包括的心臓リハビリテーションの経験」(共著) (第8回 九州心臓リハビリテーション学会,沖縄県,2014.9)
	7. 「当院における心大血管疾患作業療法の現状と課題」(筆頭) (第49回 日本作業療法士学会,兵庫県,2015.6)
	8. 「当院における心大血管疾患作業療法の役割」(筆頭) (第21回 日本心臓リハビリテーション学会,福岡県,2015.7)
	9. 「冠動脈バイパス術後患者に対する退院前訪問の経験」(共著) (第21回 日本心臓リハビリテーション学会,福岡県,2015.7)
	10. 「外来型心臓リハビリテーションと入居施設の連携より再入院が予防されている高齢慢性心不全患者の症例」(共著) (第1回 日本心臓リハビリテーション学会九州地方会,福岡県,2015.10)
	11. 「高齢者における鏡視下腱板修復術の効果」(筆頭) (第14回 肩の運動機能研究会,東京,2017.10)
	12. 「ARCR 後に肩甲胸郭関節運動療法が有効であった一例」(共著) (第14回 肩の運動機能研究会,東京,2017.10)
	13. 「高齢者心不全作業療法の上肢練習の有効性-食事動作の検討」(筆頭) (第3回 日本心臓リハビリテーション学会九州支部地方会,鹿児島,2017.3)
	14. 「重複障害を呈する冠動脈バイパス術後患者に対する多職種協業での自宅退院の取り組み」(共著) (第3回 日本心臓リハビリテーション学会九州支部地方会,鹿児島,2017.3)
	15. 「地域の医療と介護における多職種連携の現状と課題」(筆頭) (第52回 日本作業療法士学会,名古屋,2018.10)
	16. 「ぬりえがその人らしさを取り戻す-作業選択に着目して-」(共著) (九州理学療法士・作業療法士合同学会,沖縄,2018.11)
	17. 「当院健康教室における身体的フレイル有症者の実態調査」(共著) (第5回 日本サルコペニア・フレイル学会大会,京都,2018.11)
	18. 「高齢者慢性心不全に認知症を併存する患者への作業療法介入効果」(筆頭) (第20回 日本認知症ケア学会,京都,2019.6)
	19. 「多職種連携による健康教室でのサルコペニア・フレイル調査と関連因子の検討」(共著) (第6回 日本サルコペニア・フレイル学会大会,新潟,2019.11)
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市すこやか住宅改造助成事業 執務 (福岡県作業療法協会派遣) (平成 31(2019)年 4 月～現在に至る) ・北九州市地域個別ケア会議 執務 (福岡県作業療法協会派遣) (令和元(2019)年 10 月～現在に至る)
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本作業療法士協会 (認定作業療法士) (平成 14(2002)年 4 月～現在に至る) 福岡県作業療法協会 (平成 14(2002)年 4 月～現在に至る) 日本心臓リハビリテーション学会 (心臓リハビリテーション指導士) (平成 20(2008)年 9 月～現在に至る) 日本呼吸ケア学会 (呼吸ケア指導士) (平成 25(2013)年 9 月～現在に至る) (3 学会合同呼吸療法認定士) 日本認知症ケア学会 (認知症ケア専門士) (平成 28(2016)年 4 月～現在に至る)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 作業療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法基礎演習、作業療法専門演習 ・基礎作業演習 I ・地域移行性精神障害作業療法学 ・精神機能作業療法評価演習 ・作業療法評価学 ・医療安全管理学 ・臨床作業療法学演習 I、臨床作業療法学演習 II ・臨床実習 I、臨床実習 III、臨床実習 IV、臨床実習 V ・スタートアップ教育 I、スタートアップ教育 II ・作業療法ゼミナール I、作業療法ゼミナール II ・作業療法研究法、作業療法卒業研究
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 作業科学および作業療法理論 ■ 精神障害分野 ■ 高齢期分野
最 終 学 歴	県立広島大学大学院 総合科学研究科保健福祉学専攻 総合リハビリテーション分野作業遂行障害学領域修了
学 位	修士 (保健福祉学)
職 歴	医療法人日明会 日明病院 (平成 6(1994)年 4 月～平成 14(2002)年 3 月) 学校法人麻生塾 麻生リハビリテーション専門学校 専任教員 (平成 14(2002)年 4 月～平成 25(2013)年 3 月) 学校法人麻生塾 専門学校麻生リハビリテーション大学校 専任教員 (平成 25(2013)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部作業療法学科 准教授 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)
教育上の業績	<p>○作業療法臨床実習指導者 (平成 10(1998)年～平成 14(2002)年) 精神科単科病院において、作業療法士養成校 4 校の学生を受け入れ、臨床実習指導に 6 年間携わった。</p> <p>○学校法人麻生塾 麻生リハビリテーション専門学校 専任教員 (平成 14(2002)年 4 月～平成 25(2013)年 3 月) 「精神障害作業療法学」、「地域作業療法学」、「老年期障害作業療法学」、「クラフト実習」の講義を主担当した。</p> <p>○学校法人麻生塾 専門学校麻生リハビリテーション大学校 専任教員 (平成 25(2013)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月) 「精神障害作業療法学」、「地域作業療法学」、「老年期障害作業療法学」、「作業療法理論」、「基礎作業学実習」の講義を主担当した。また、「作業療法概論」、「作業療法評価学」、「職業関連活動」について分担担当した。</p>
【作成した教材】	
	<p>○e-learning コンテンツ「臨床実習支援プログラム～事例演習」作成 (平成 21 年度文部科学省委託事業) (平成 22(2010)年 3 月 31 日) (概要) 作業療法における臨床実習でのインターク面接から作業療法評価計画までの事例を通したトレーニングが可能なコンテンツを作成した。</p> <p>○「精神領域の作業療法」(中央法規) (平成 22(2010)年 7 月 1 日) (概要) 治療構造論、気分障害、認知症について、人間作業モデルの概念に基づきその特徴について執筆した。</p>

	<p>○「日本作業療法士協会 作業療法マニュアル精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム」 (平成 23(2011)年 3 月 31 日) (概要) 自身が経験した統合失調症の男性に対する地域生活移行・継続支援についての事例紹介を執筆した。</p> <p>○「事例でわかる人間作業モデル」(協同医書出版) (平成 27(2015)年 9 月 15 日) (概要) 軽度アルツハイマー型認知症高齢者に対して認知症高齢者の絵カード評価法を用いた介入により精神科病院から施設入所に至った事例について執筆した。</p> <p>○「精神領域の作業療法 第 2 版」(協同医書) (平成 28(2016)年 2 月 20 日) (概要) 治療構造論, 気分障害, 認知症について, 人間作業モデルの概念に基づきその特徴に加え, アルツハイマー型認知症の女性に対する人間作業モデルに基づく介入について事例として紹介した。</p>
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>1. 「精神領域の作業療法」中央法規出版 (共著) (2010.7.1) [再掲] 石井良和, 京極真, 長雄眞一郎, 青山克実(分担執筆) (概要) 治療構造論, 気分障害, 認知症について, 人間作業モデルの概念に基づきその特徴について執筆した。</p> <p>2. 「日本作業療法士協会 作業療法マニュアル 精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム」日本作業療法士協会 (共著) (2011.3.31) [再掲] 小林正義, 香山明美, 酒井道代, 岩永竜一郎, 青山克実(分担執筆), 岡本利子 (概要) 自身が経験した統合失調症の男性に対する地域生活移行・継続支援についての事例紹介を執筆した。</p> <p>3. 「事例でわかる人間作業モデル」共同医書出版 (共著) (2015.9.15) [再掲] 山田 孝 編著, 青山克実 分担執筆 (概要) 軽度アルツハイマー型認知症高齢者に対して認知症高齢者の絵カード評価法を用いた介入により精神科病院から施設入所に至った事例について執筆した。</p> <p>4. 「精神領域の作業療法 第 2 版」中央法規出版 (共著) (2016.2.20) [再掲] 石井良和, 京極真, 長雄眞一郎 編著, 青山克実 分担執筆 (概要) 治療構造論, 気分障害, 認知症について, 人間作業モデルの概念に基づきその特徴に加え, アルツハイマー型認知症の女性に対する人間作業モデルに基づく介入について事例として紹介した。</p>
	<p>【学術論文】</p> <p>1. 「長期入院の統合失調症に対するプログラム計画のための文献レビュー」(共著) 青山克実, 山田 孝 (2010.12) (概要) 長期入院の作業療法のエビデンスレベルや主な対象領域について, 作業療法の主要な論文をレビューした。長期入院の統合失調症者に対する体系的なプログラム開発の必要性とエビデンスの構築の必要性が示唆された。</p> <p>2. 「何したらいいかわからない」と語る統合失調症者に対する地域生活移行支援 ～人間作業モデルを用いた介入～ (共著) 青山克実, 山田 孝 (2011.12) (概要) 数回の入退院を繰り返している統合失調症の男性に対する作業療法介入およびケアマネジメントを通して, 地域生活移行・継続支援において人間作業モデルに基づく介入が有効であることを検討した。</p> <p>3. 「クライアントの作業に焦点をあてた作業療法教育の導入」(共著) 青山克実, 山田 孝, 近藤 敏 (2013.12) (日本作業行動学会 平成 25 年度優秀論文) (概要) 医学モデルに特化した作業療法教育だけでなく, 作業に焦点をあてた作業療法の養成教育の在り方について, 熟練者などのインタビューに基づいて検討した。</p>

	<p>4. 「軽度アルツハイマー型認知症高齢者に対する『認知症高齢者の絵カード評価法』を用いた作業療法の有効性」(共著) 青山克実、山田 孝 (2014.3) (日本作業行動学会 平成 25 年度優秀論文)</p>
	<p>(概要) 軽度アルツハイマー型認知症の男性に対し、人間作業モデルに基づいて日本で開発された認知症高齢者の絵カード評価法を用いて介入する有効性について検討した。</p>
	<p>5. 「AMPS における統合失調症者の作業遂行技能の特徴について」(共著) 青山克実、久野真矢、老川良輔 (2014.6)</p>
	<p>(概要) 統合失調症の作業遂行技能(生活必要な課題を行うための技能)の特徴について、運動技能とプロセス技能評価(AMPS)で調査し検討した。</p>
	<p>6. 「長期入院の統合失調症の生活様式と健康関連 QOL の特徴に関する研究 ～プログラム開発のためのニーズ調査～」(共著) 青山克実、山田 孝 (2016.9)</p>
	<p>(概要) 長期入院の統合失調症者の作業療法に対するニーズ調査として、生活様式を人間作業モデルに基づいて開発された作業質問紙(OQ)を用いて調査し、WHO-QOL26 で調査した健康関連 QOL との関係性について検討した</p>
	<p>7. 「長期入院の統合失調症の生活様式と健康関連 QOL の特徴に関する研究 ～プログラム開発のためのニーズ調査～」(共著) 青山克実、山田 孝 (2016.12)</p>
	<p>(概要) 長期入院の統合失調症者のプログラム開発のための集団の特徴を知るために、作業機能障害の要因の特徴について人間作業モデルスクリーニングツールを用いて調査し、WHO-QOL26 で調査した健康関連 QOL との関係性について検討した。</p>
	<p>8. 「統合失調症者の作業遂行技能と認知機能の関係について-AMPS と BACS - J を用いて -予備的調査」(共著) 青山克実、久野真矢 (2017.3)</p>
	<p>(概要) 統合失調症者の運動技能およびプロセス技能と認知機能障害の関係について、その特徴を予備的に検討した。</p>
	<p>9. 「作業バランスの不均衡を起こした統合失調症男性への就労生活支援 ～ケア会議を通じた作業バランス自己診断の活用～」(単著) 青山克実 (2018.4)</p>
	<p>(概要) パート就労継続の危機(作業バランスの不均衡)を迎えた統合失調症の男性に対し、ケア会議と作業バランス自己診断の活用が有効であったことを報告した。</p>
	<p>10. 「長期入院統合失調症者に対する作業療法プログラム計画の効果 ～3 事例による予備的研究～」(共著) 青山克実、山田 孝、岸和香奈 (2018.6)</p>
	<p>(概要) 開発した長期入院統合失調症に対する作業療法プログラムが、厚生労働省が示す長期入院に対する地域生活移行のための「退院への意欲の喚起」として有用であるか、3 事例への介入を通して予備的に検討した。</p>
	<p>11. 「生活行為向上マネジメントを用いた統合失調症の男性への地域生活移行支援」(共著) 青山克実、豊嶋明日美、小林暉尚 (2019.2)</p>
	<p>(概要) 日本作業療法士協会が開発した生活行為向上マネジメント(MTDLP)を通して精神科病院に入院中の統合失調症の男性に対する退院支援を実施し、MTDLP の有効性について検討し報告した。</p>

	<p>12. 「作業に焦点をあてた作業療法自己効力感尺度開発に向けた文献レビュー～職業的アイデンティティと自己効力感に影響する要因～」(共著) 青山克実、山田 孝、安部剛敏、老川良輔 (2019.12)</p> <p>(概要) 日本作業療法士協会が定義する作業に焦点をあてた作業療法実践に対する自己効力感尺度を開発するための先行研究として、作業療法のアイデンティティと自己効力感尺度に影響する要因を概念化した。職業的アイデンティティには作業療法実践に対する自己効力感が影響するが、作業に焦点をあてた作業療法に対する自己効力感を測定する尺度はなく、開発する意義があることを報告した。</p>
	<p>13. 「作業に焦点をあてた作業療法自己効力感尺度開発に向けた文献レビュー～職業的アイデンティティと自己効力感に影響する要因～」(共著) 青山克実、山田 孝、安部剛敏、老川良輔 (2020.3)</p> <p>(概要) 日本作業療法士協会が定義する作業に焦点をあてた作業療法実践に対する自己効力感尺度を開発するための先行研究として、作業に焦点をあてた作業療法実践とはどのような行動ができることなのか、一定の条件に見合った論文をレビューし、概念化し報告した。</p>
	<p>14. 「作業に焦点を当てた作業療法実践自己効力感尺度」の開発～内容妥当性の検討～ 青山克実、山田 孝、安部剛敏、老川良輔 (2021.3)</p> <p>(概要) 作業に焦点 当てた作業療法実践に対する自己効力感尺度について、尺度項目の内容妥当性について検討した結果について報告した。</p>
	<p>15. MOHO の導入により祖父としての役割を再獲得した事例～孫へのプレゼント作りを通して～(共著) 植田将広、青山克実 (2020.9)</p> <p>(概要) 地域包括ケア病棟にて誤嚥性肺炎を発症した臥床傾向の事例に対し、人間作業モデルを導入し、孫へのプレゼント作りを作業療法プログラムへ導入した。その結果、事例の活動量が向上し日常生活活動能力と認知機能の改善が得られ、人間作業モデルが地域包括ケア病棟において有用であることを報告した。</p>
	<p>16. 統合失調症者の作業技能と認知機能障害—AMPS と BACS-J を用いて— 青山克実、久野真矢</p> <p>(概要) 統合失調症者の運動技能およびプロセス技能と認知機能障害の関係について、その特徴を予備的に検討した研究に引き続き、適正なサンプル数にて引き続き検討し報告した。</p>
【学会発表】	
	<p>1. 「臨床実習における自己効力感の情報源と学生の対人認知に関する研究」(筆頭) 第 44 回 日本作業療法学会 青山克実、目野昭、渡辺みゆき、近藤昭彦 〈主 催〉日本作業療法学会 〈開催年月日〉平成 22(2010)年 6 月</p> <p>(概要) 臨床実習において、学生が作業療法に対する自己効力感を高めるために得られた情報源の程度と臨床実習指導者に対する学生の認知の傾向の関係について検討した。</p>
	<p>2. 「入退院を繰り返す事例に対するエンパワメント支援について」(共同) 第 50 回 中・四国精神神経学会 重本友里恵、武田朋昭、二本樹一成、青山克実 〈主 催〉中・四国精神神経学会 〈開催年月日〉平成 22(2010)年 12 月</p> <p>(概要) 入退院を繰り返す統合失調症の男性に対する多職種連携支援を通して、地域生活移行支援におけるエンパワメント支援の重要性や有効性について検討した。</p>

	<p>3. 「価値観を大切にすることで役割を獲得した症例について」 (共同) 第 45 回 日本作業療法学会 佐々木玲奈、徳丸由美子、青山克実 〈主 催〉 日本作業療法学会 〈開催年月日〉 平成 23(2011)年 6 月</p>
	<p>(概要) 脳梗塞後、意欲が低下した症例に対し、人間作業モデルに基づき、価値のある作業を見出しアプローチすることが、クライアントの自己効力感の向上や役割の定着につながることを検討した。</p>
	<p>4. 「AMPS における統合失調症の作業遂行技能の特徴」 (筆頭) 第 45 回 日本作業療法学会 青山克実、老川良輔 〈主 催〉 日本作業療法学会 〈開催年月日〉 平成 23(2011)年 6 月</p>
	<p>(概要) 統合失調症の AMPS における作業遂行技能特徴について AMPS を用いて調査し、運動技能及びプロセス技能の問題点を特徴を報告した。</p>
	<p>5. 「作業療法がクライアントの健康状態に与える影響について」 (共同) 第 45 回 日本作業療法学会 西野朱美、小野邦江、米原健太郎、青山克実 〈主 催〉 日本作業療法学会 〈開催年月日〉 平成 23(2011)年 6 月</p>
	<p>(概要) 入院中で作業療法を受療している統合失調症者に対し作業バランス自己診断およびプラス作業チェックシートを用いて調査し、作業療法において作業療法士が考慮すべき点などについて検討した。</p>
	<p>6. 「統合失調症者の作業遂行技能と認知機能の関係について-AMPS と BACS - J を用いて-」 (筆頭) 第 46 回 日本作業療法学会 青山克実 〈主 催〉 日本作業療法学会 〈開催年月日〉 平成 24(2012)年 6 月</p>
	<p>(概要) 統合失調症の AMPS における作業遂行技能と認知機能との関連について調査し、作業遂行技能に特に影響しうる認知機能の問題を検討した。</p>
	<p>7. 「長期入院の統合失調症に対するプログラム計画のための文献レビュー」 (筆頭) 第 22 回 日本作業行動学会学術集会 青山克実、山田 孝 〈主 催〉 日本作業行動学会 〈開催年月日〉 平成 24(2012)年 9 月</p>
	<p>(概要) 長期入院の作業療法のエビデンスレベルや主な対象領域について、作業療法の主要な論文をレビューした。長期入院の統合失調症者に対する体系的なプログラム開発の必要性とエビデンスの構築の必要性が示唆された。</p>
	<p>8. 「作業に焦点をあてた作業療法教育の導入に関する研究」 (筆頭) 第 47 回 日本作業療法学会 青山克実、近藤 敏 〈主 催〉 日本作業療法学会 〈開催年月日〉 平成 25(2013)年 6 月</p>
	<p>(概要) 医学モデルに特化した作業療法教育だけでなく、作業に焦点をあてた作業療法の養成教育の在り方について、熟練者などのインタビューに基づいて検討した。</p>

9. Occupational balance and subjective recognition to environment of the long-term hospitalized persons with schizophrenia.(長期入院の統合失調症者の作業バランスと環境に対する主観的側面について) (筆頭)

第16回 世界作業療法士連盟大会(第48回日本作業療法学会)

青山克実、山田 孝

〈主 催〉日本作業療法学会

〈開催年月日〉平成26(2014)年6月

(概要)

長期入院統合失調症者の作業バランスと環境に対する主観的認識について調査し、長期入院統合失調症がどのような作業が制限されているのか、環境要因の側面から検討した。

10. 「作業的視点で関わり続けた7年間～統合失調症の男性に対する地域生活移行・継続支援」(筆頭)

第25回 日本作業行動学会学術集会

青山克実

〈主 催〉日本作業行動学会

〈開催年月日〉平成26(2014)年8月

(概要)

入院から地域生活移行、就労継続支援施設などを利用しながら7年間の多職種連携の支援によりパート就労に至った統合失調症の男性との経過を振り返り、地域生活移行・継続支援における作業療法士の役割について検討した。

11. 「地域在住統合失調者の作業機能障害と環境要因の関係について」(筆頭)

第49回 日本作業療法学会

青山克実、藪脇健司、西野朱美

〈主 催〉日本作業療法学会

〈開催年月日〉平成27(2015)年6月

(概要)

地域在住の統合失調症者の作業機能障害の特徴を作業機能障害の種類と評価(CAOD)で調査し、包括的環境要因調査票(CEQ)で調査した環境要因との関連性について検討した。

12. 「超長期入院統合失調症者の生活様式と作業適応障害の特徴について」(筆頭)

第26回 日本作業行動学会学術集会

青山克実、山田 孝

〈主 催〉日本作業療法学会

〈開催年月日〉平成27(2015)年9月

(概要)

長期入院の統合失調症者の作業療法プログラム開発のニーズ調査として、生活様式と作業適応障害の特徴について作業質問紙、人間作業モデルスクリーニングツールで予備的に調査した。

13. 「統合失調症の男性への地域生活移行の支援」(筆頭)

第27回 日本作業行動学会

青山克実、山田 孝、豊嶋明日美

〈主 催〉日本作業行動学会

〈開催年月日〉平成28(2016)年6月

(概要)

日本作業療法士協会が開発した生活行為向上マネジメントをより有効に活用するために人間作業モデルに基づく作業に関する自己評価改訂版を補助的に利用することでスムーズな地域生活移行へつながることについて事例を通して検討した。

14. 「長期入院統合失調症者の生活様式と作業適応障害の特徴

～プログラム開発のためのニーズ調査～(筆頭)

第50回 日本作業療法学会

青山克実、山田 孝

〈主 催〉日本作業療法学会

〈開催年月日〉平成28(2016)年9月

(概要)

長期入院の統合失調症者の作業療法プログラム開発のニーズ調査として、予備的調査にデータを追加して生活様式と作業適応障害の特徴について作業質問紙、人間作業モデルスクリーニングツールで検討した。

15. 「長期入院の統合失調症者に対する認知症絵カード評価法を用いた介入の有用性」 (筆頭)

第 21 回 福岡県作業療法学会
 青山克実、山田 孝
 〈主 催〉 福岡県作業療法学会
 〈開催年月日〉 平成 29(2017)年 2 月

(概要)

認知症高齢者に対して開発された「認知症高齢者絵カード評価法」が長期入院統合失調症者への援用が可能か、事例への介入を通してその有用性について検討した。

16. 「長期入院の統合失調症者に対する作業療法プログラムの効果～3 事例を通じた予備的研究～」 (筆頭)

第 27 回 日本作業行動学会
 青山克実、山田 孝、岸和香奈
 〈主 催〉 日本作業行動学会
 〈開催年月日〉 平成 29(2017)年 6 月

(概要)

開発した長期入院統合失調症者に対する作業療法プログラムを 3 事例に試行し、その成果について整理し、プログラムの有用性について検討した。

17. 「長期入院統合失調症に対する作業療法プログラムの試行」 (共同)

第 51 回 日本作業療法学会
 岸和香奈、山田 孝、青山克実
 〈主 催〉 日本作業療法学会
 〈開催年月日〉 平成 29(2017)年 9 月

(概要)

開発した長期入院統合失調症者に対する作業療法プログラムを事例に試行し、その成果について整理し、プログラムの有用性について検討した。

**18. 「e-Learning における作業療法教育の効果に関する予備的研究
～作業療法評価に対する自己効力感～」 (筆頭)**

第 51 回 日本作業療法学会
 青山克実
 〈主 催〉 日本作業療法学会
 〈開催年月日〉 平成 29(2017)年 9 月

(概要)

所属校でインストラクショナルデザインである CRI(Criterion-Referenced Instruction)に基づいて開発した e-learning コンテンツを通して事例演習を実施結果、学生の作業療法の評価に対する自己効力感がどのように変化し、どのような情報源となっているのかを検討した。

19. 「学習方略がリハビリテーション専門基礎領域科目の成績に及ぼす影響」 (共同)

第 51 回 日本作業療法学会
 老川良輔、青山克実
 〈主 催〉 日本作業療法学会
 〈開催年月日〉 平成 29(2017)年 9 月

(概要)

作業療法学科学生の解剖学、生理学、運動学の成績と学生の学習方略の関係について調査し、効果的な学習方略と学生の学習支援について検討した。

**20. 「作業に焦点をあてた作業療法自己効力感尺度開発のための文献レビュー
～職業的アイデンティティと自己効力感に着目して～」 (筆頭)**

第 28 回 日本作業行動学会
 青山克実、山田 孝、安部剛敏、老川良輔
 〈主 催〉 日本作業療法学会
 〈開催年月日〉 平成 30(2018)年 6 月

(概要)

作業療法士を含めた医療福祉職、および同学生の職業的アイデンティティと自己効力感に関する文献をレビューし、その関係について概念化し、作業に焦点をあてた作業療法自己効力感尺度の開発の必要性や意義について検討した。

**21. 「作業に焦点をあてた作業療法自己効力感尺度開発に向けた文献レビュー
 ～職業的アイデンティティと自己効力感に影響する要因～」 (筆頭)**

第1回 九州作業療法学会
 青山克実、山田 孝、安部剛敏、老川良輔
 〈主 催〉九州作業療法学会
 〈開催年月日〉令和元(2019)年6月

(概要)

前年度、日本作業行動学会にて発表した報告後さらにレビュー対象を限定し、作業に焦点をあてた作業療法自己効力感尺度の開発の必要性や意義について検討した。

**22. 「作業に焦点をあてた作業療法実践の文献的探索
 -作業に焦点をあてた作業療法実践自己効力感尺度開発のために-」 (筆頭)**

第29回 日本作業行動学会学術集会
 青山克実、山田 孝、安部剛敏、老川良輔
 〈主 催〉日本作業行動学会
 〈開催年月日〉令和元(2019)年6月

(概要)

日本作業療法士協会が定義する作業に焦点をあてた作業療法実践に対する自己効力感尺度を開発するための先行研究として、作業に焦点をあてた作業療法実践とはどのような行動ができることなのか、一定の条件に見合った論文をレビューし、概念化し報告した。

23. 「作業に焦点を当てた作業療法実践自己効力感尺度」の開発 ～内容妥当性の検討～

第54回 日本作業療法学会
 青山克実、山田 孝、安部剛敏、老川良輔
 〈主 催〉日本作業療法学会
 〈開催年月日〉令和2(2020)年9月

(概要)

作業に焦点 当てた作業療法実践に対する自己効力感尺度について、尺度項目の内容妥当性について検討した結果について報告した。

**24. 「退院へ漠然とした不安を抱えるクライアントが作業を通して強化された事例
 ～人間作業モデルを用いて～」**

第24回 福岡県作業療法学会
 青山克実、山田 孝、安部剛敏、老川良輔
 〈主 催〉福岡県作業療法協会
 〈開催年月日〉令和3(2021)年2月

(概要)

解離性障害により失立失歩を停止。退院に向けて漠然とした不安を抱える女性に対し人間作業モデルを用いて介入した結果、退院に向けて作業同一性が明確となり、具体的な課題を検討することができるようになった事例について報告した。

**25. 「COVID-19 対策下における学生の生活様式の特徴と生活満足度
 ～作業バランスを通して～」**

九州作業療法学会 2021
 青山 克実、長城晃一
 〈主 催〉九州作業療法士会会長会
 〈開催年月日〉令和3(2021)年6月

(概要)

本学における作業療法学生の通常通学時とオンライン授業時における作業バランスを用いた生活様式の特徴と生活満足度と、通常通学時と自宅自粛時の学生生活に対する認識について調査し、オンライン授業における学修支援について検討し報告した。

	<p>26. 「役割獲得が行動・心理症状の軽減に至った症例」 九州作業療法学会 2021 福井 綾、青山克実、山田孝 〈主 催〉九州作業療法士会 〈開催年月日〉令和 3(2021)年 6 月</p> <p>(概要) 在宅復帰を目的に入所したレビー小体型認知症に対し人間作業モデル (以下; MOHO) に基づいて役割の再獲得を目指した介入を行なった結果, BPSD の改善が得られた。役割の再獲得を支援する作業療法が BPSD の改善に有効であることと MOHO が最適であることを報告した。</p> <p>27. 「作業バランスの改善が意志に影響を及ぼしたアプローチ」 九州作業療法学会 2021 山本 祐輔、青山克実、山田孝 〈主 催〉九州作業療法士会 〈開催年月日〉令和 3(2021)年 6 月</p> <p>(概要) 今後の生活の予測が出来ず強い不安を認めた大腿骨頸部骨折を受傷した高齢女性に対し、人間作業モデルの概念を用いて作業バランスにアプローチすることで、習慣に変化が見られ、個人的原因帰属の向上が図れたことを報告した。</p>
<p>主な社会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本作業行動学会 人間作業モデル講習会 講師 (平成 25(2013)年 5 月～現在に至る) 作業療法の基礎理論の一つである人間作業モデルの基本的概念や評価法についての講習会の講師を年 3 回勤めている。 【その他】 ・日本作業行動学会 代議員 (平成 25(2013)年 5 月～現在に至る) ・福岡県作業療法協会 教育部担当理事 (平成 28(2016)年 5 月～現在に至る) ・日本作業療法士協会 事例報告登録システム A 査読員 (平成 28(2016)年 4 月～現在に至る) ・日本作業療法学会 演題査読員 (平成 18(2006)年 4 月～現在に至る) ・九州作業療法学会 演題査読員 (平成 30(2018)年 4 月～現在に至る) ・学術誌「作業療法」第二査読者 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)
<p>所属学会</p>	<p>日本作業療法士協会 日本作業療法学会 福岡県作業療法協会 福岡県作業療法学会 日本地域作業療法研究会 精神科作業療法協会 九州 PTOT 合同学会(現・九州作業療法学会) 日本作業行動学会 CEPD(Cognitive Enhancement in Psychiatric Disorders)研究会 日本作業療法教育学会 日本作業科学研究会</p>
<p>受賞歴</p>	<p>日本作業行動学会最優秀論文 (研究論文) (筆頭筆者) (平成 26(2014)年 8 月) 福岡県作業療法学会 優秀演題賞(共同筆者) (令和 3(2021)年 2 月)</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	[リハビリテーション学部 作業療法学科] <ul style="list-style-type: none"> ・急性期精神障害作業療法学 ・職業関連支援 ・基礎作業演習 I ・基礎作業実習 ・臨床作業療法学演習 I, 臨床作業療法学演習 II ・作業療法ゼミナール I, 作業療法ゼミナール II, 作業療法ゼミナール III ・作業療法研究法 ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・作業療法卒業研究 ・臨床実習 I, 臨床実習 II, 臨床実習 III, 臨床実習 IV, 臨床実習 V
専 門 分 野	■ 精神障害作業療法
最 終 学 歴	放送大学大学院 文化科学研究科 文化科学専攻 修士課程修了
学 位	修士 (学術)
職 歴	医療法人社団わかさ会 南八街病院 (平成 16(2004)年 4 月～平成 18(2006)年 9 月) 医療法人社団爽風会 佐々木病院 (平成 18(2006)年 9 月～平成 25(2013)年 3 月) 医療法人社団爽風会 心の風クリニック千葉 (平成 25(2013)年 4 月～平成 26(2014)年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 (平成 27(2015)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)
教育上の業績	○学校メンタルヘルスリテラシー教育講師 (平成 23(2011)年 9 月～平成 24(2012)年 12 月) ○『精神障害作業療法入門 改訂第 2 版』ICF と MTDLP (共著) (令和 2(2020)年 5 月) ○『改訂第 2 版 OT 臨地実習ルートマップ』臨地実習実技編「摂食障害」領域 (共著) (平成 31(2019)年 4 月) ○『セラピストのための概説リハビリテーション 第 2 版』 [リハビリテーションの対象疾患] 精神障害 (共著) (平成 30(2018)年 2 月)
主な研究活動	【学術論文】 1. 平澤勉, 野際陽子:「デイケア終了後の復職を予測するものは何か?」 (作業療法 30 (6) : p707-p716, 2011) 2. 野際陽子, 平澤勉:「うつ病復職支援デイケアの早期介入で大切なこと」 (障害者職業センター職リハ研究会発表論文集 (第 19 回) : p283-p286, 2011) 3. 平澤勉, 野際陽子:「入院うつ病患者に対する作業療法の効果」 (作業療法 32 (6) : p536-p546, 2013) 4. 平澤勉, 小川修, 室井廣大, 古門義弘, 神崎良子, 石橋敏郎, 大丸幸: 「南区キャンパスにおける学生支援会議の取り組みと課題 —学生支援会議議事録と議題提出した教員インタビューから見てきたもの—」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第 14 号 : p219-p233, 2017) 5. 大丸幸, 平澤勉, 田口真理, 三重野利香, 東和也: 「精神科病院で求められる作業療法への期待 ～事例勉強会よりみえてきた作業療法士の課題～」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第 14 号 : p139-p152, 2017)

	<p>6. <u>平澤勉</u>： 「気分障害患者に対する精神科作業療法の効果と役割は何か？」 「アンケート調査による主観的効果の分析」 (Open Forum No.14 : p30-p31, 2018)</p> <p>7. 大丸幸, 深町晃次, 小川修, <u>平澤勉</u>： 「精神科リハビリテーションにおける保健医療福祉専門職連携 精神障害者の地域移行における他職種連携事例からの検証」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第15号 : p53-p62, 2018)</p> <p>8. <u>平澤勉</u>, 大丸幸, 深町晃次, 小川修, 平池雅也： 「精神科デイケア利用者の体力, 運動習慣, および作業に関するニーズの関係」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第16号 : p99-p114, 2019)</p>
【学会発表】	
	<p>1. <u>平澤勉</u>, 野際陽子：「うつ病復職デイケア利用者を対象とした気分と疲労の傾向について」 第44回日本作業療法学会 (2010)</p> <p>2. 野際陽子, <u>平澤勉</u>：「疲労の回復は, 復職支援デイケア利用者の復職を予測するか?」 第7回日本疲労学会 (2011)</p> <p>3. <u>平澤勉</u>, 野際陽子：「新しいタイプの多様な精神科患者に対し, 気分や不快な思考に治療的効果のある, OTプログラムと作業遂行の質とは?」 第45回日本作業療法学会 (2011)</p> <p>4. 野際陽子, <u>平澤勉</u>：「うつ病復職デイケア利用早期に何が変化すると復職できるか?」 第45回日本作業療法学会 (2011)</p> <p>5. 野際陽子, <u>平澤勉</u>：「リワークデイケア早期に何が変化すると復職できるのか?」 第18回日本産業精神保健学会 (2011)</p> <p>6. <u>平澤勉</u>, 野際陽子：「うつ病患者はOTの何に満足するのか?」 第46回日本作業療法学会 (2012)</p> <p>7. 野際陽子, <u>平澤勉</u>：「うつ病者の回復段階に合わせた効果的な介入方法について」 第46回日本作業療法学会 (2012)</p>
<p>主な社会活動</p>	<p>北九州市立年長者研修大学校講座 周防学舎シニアカレッジ 健康講話「うつ病」 (平成30(2018)年9月)</p> <p>九州栄養福祉大学地域貢献事業 精神科病院デイケア利用者 健康体力測定 (平成30(2018)年11月)</p> <p>九州栄養福祉大学地域貢献事業 精神科病院デイケア利用者 大学施設案内 (平成30(2018)年11月)</p> <p>九州栄養福祉大学地域貢献事業 精神科病院デイケア利用者 健康体力測定 (令和元(2019)年10月)</p> <p>福岡県臨床実習指導者講習会 「臨床実習における学生評価」講師 (令和元(2019)年11月, 令和2(2020)年12月, 令和3(2021)年2月, 令和3(2021)年3月)</p>
<p>所属学会</p>	<p>日本作業療法士協会会員 (平成16(2004)年～現在に至る)</p> <p>福岡県作業療法協会会員 (平成27(2015)年～現在に至る)</p> <p>日本うつ病作業療法研究会会員 (平成23(2011)年～現在に至る)</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報処理演習 I、情報処理演習 II ・臨床統計 ・医療人のための科学 ・医療人のための経営管理 <p>[リハビリテーション学部 作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習IV
専 門 分 野	■ スポーツ心理学
最 終 学 歴	九州大学大学院 人間環境学府行動システム専攻修士課程 修了
学 位	修士 (人間環境学) 学士 (物理学)
職 歴	<p>九州大学 基幹教育科目ティーチングアシスタント 「健康・運動スポーツ科学演習」「身体運動科学実習」担当 (平成 30(2018)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)</p> <p>九州大学 基幹教育科目ティーチングアシスタント 「心理学入門」担当 (令和 2(2020)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)</p> <p>九州大学大学院 人間環境学府 行動システム専攻 博士後期課程入学 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 助教 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○九州大学 基幹教育科目ティーチングアシスタント 九州大学基幹教育科目の「健康・スポーツ科学演習」と「身体科学実習」において、ティーチングアシスタントとして担当教員の補助を担当した。担当教員の監督のもと、学生に対して用具や施設の使用に関する教示を行った。また、安全管理の配慮に努めた。(平成 30(2018)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)</p> <p>○九州大学 基幹教育科目ティーチングアシスタント 九州大学基幹教育科目の「心理学入門」において、ティーチングアシスタントとして担当教員の補助を担当した。担当教員の監督のもと、学生の点呼やオンライン授業のリハーサルチェックなどを行い、スムーズに授業が進行するよう努めた。(令和 2(2020)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1. 『「大学運動部員における感謝の生起を促進する組織環境尺度」の開発』(共著) 久保 昂大、杉山 佳生 健康科学 (令和 3(2021)年 3 月)</p> <p>(概要) 先行研究においては、運動部活動生の感謝の生起を促進することの重要性が指摘されており、感謝の生起を促進する要因の検討が求められている。本研究では、この促進要因を測定するための尺度開発に取り組んだ。具体的には、「感謝の生起を促進するチーム内の雰囲気(感謝風土)」と「感謝の生起を促進するチーム内の決まりやテーマ(感謝に関する公的システム)」を測定する尺度の作成と信頼性・妥当性の検討を行った。</p> <p>【学会発表・その他発表】</p> <p>1. 「スポーツ選手における感謝と組織市民行動」(単著) : ポスター発表 (主 催 等) 九州大学大学院人間環境学府 多分野連携プログラム ミニシンポジウム「共生社会のための心理学」 (開催年月日) 平成 31(2019)年 2 月</p> <p>(概要) スポーツ選手を対象にした感謝に関する研究について概観し、先行研究の課題についてまとめた。その後、今後行うべき研究として、スポーツ選手の感謝の生起とチーム内での組織市民行動(チームを効果的に機能させるための役割外行動)の関係を検討することの必要性について論じた。</p>

	<p>2. 「スポーツチームにおける感謝風土の検討 (1)」 (共著) : ポスター発表 <u>久保 昂大</u>、杉山 佳生 (主 催 等) 日本社会心理学会第 60 回大会 (於 : 立正大学) (開催年月日) 令和元(2019)年 11 月</p> <p>(概要) 大学運動部活動生を対象に自由記述調査を実施し、スポーツチームにおける感謝風土 (感謝の生起を促進するチーム内の雰囲気) とスポーツチームにおける感謝に関する公的システム (感謝の生起を促進するチーム内の決まりやテーマ) はどのような概念であるのかを、KJ 法によって分析した。</p> <p>3. 「スポーツチームにおける感謝風土の検討 (2)」 (共著) : ポスター発表 <u>久保 昂大</u>、杉山 佳生 (主 催 等) 日本スポーツ心理学会第 46 回大会 (於 : 筑波大学) (開催年月日) 令和元(2019)年 11 月</p> <p>(概要) スポーツチームにおける感謝風土と感謝に関する公的システムを測定する尺度開発に向けた項目作成に取り組んだ。具体的には、大学運動部活動生を対象に行った自由記述調査の結果を KJ 法によって分析し、得られた結果を参考に尺度項目の作成を行った。最後に、今後の研究の方向性について考察した。</p> <p>4. 『「大学運動部における感謝環境尺度」の作成と信頼性・妥当性の検討』 (共著) : ポスター発表 <u>久保 昂大</u>、杉山 佳生 (主 催 等) 九州スポーツ心理学会第 33 回大会 (オンライン開催) (開催年月日) 令和 2(2020)年 3 月</p> <p>(概要) 大学運動部における感謝風土と感謝に関する公的システムを測定する尺度を、探索的因子分析によって作成した。そして、得られた因子構造を確証的因子分析によって検討し、最後に、両尺度の信頼性と妥当性を検証した。</p>
<p>主な社会活動</p>	<p>・人間環境学コロキウム 企画運営 (平成 31(2019)年 3 月)</p>
<p>所属学会</p>	<p>日本社会心理学会員 (令和元(2019)年 6 月～現在に至る) 日本スポーツ心理学会員 (令和元(2019)年 7 月～現在に至る) International Society of Sport Psychology 会員 (令和 2(2020)年 12 月～現在に至る) 九州体育・スポーツ学会会員 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)</p>
<p>受賞歴</p>	<p>九州大学大学院人間環境学府学府長賞 奨励賞 (令和 2(2020)年 3 月)</p>